

## 地域統合の現在と未来

### 【研究概要】

2度にわたる世界大戦の終結と東西冷戦という2極構造の終焉は、国家や地域のあり方や体制の変化に大きな影響を与えた。この二つの大きな出来事を契機として、国家の分断や独立が相次ぎ、それはまた、新たな国家の誕生や地域的な統合を促すことにもなった。特に近年、国家の自主独立が前面に押し出される形になりながらも、近隣国家間あるいは地域的なつながりを有する国家間での協調的な枠組みの構築が、世界各地で行われるようになってきている。その協調的枠組みの目的は実に様々で、それぞれが独自の事情によって形成されていることが多い。政治経済的利益やイデオロギーを目的とした相克を乗り越えて、近隣国家間で平和と安定を保とうという趣旨で地域的な交流の進化が図られてきたケース。或いは、大国や対立国への対峙策として、近隣国家間で協力関係を深め、地域の結びつきを高めていくという、安全保障上の動機が主となっている場合。さらには、規模の経済の拡大と経済効率性の確保といった市場原理を掲げて、貿易や投資の拡大とそれに伴う国家や国民の社会経済の向上を主たる目的としたもの。等々、その地域的統合の趣旨やその枠組み参加する国家の意図や戦略は、地政学的観点や、各国・地域が置かれた政治経済上の事情とあいまって、複雑に絡み合っている。

日本がアジア地域のみならず世界各国との協調に向けて意義のある外交活動を展開するためには、世界各地域の地域統合の動向とアジアにおける地域制度の動態を的確に理解しなければならない。そして、そうした理解に立って、日本にとって望ましいアジアの地域制度の在り方（地域のアーキテクチャー）とそれを実現するための方策を検討しなければならない。日本の目標を実現するために日本はどのような諸国と連携すべきか、その際に考慮すべき要因は何か、日本の有する外交資産は何かなどを的確に認識する必要がある。

本研究プロジェクトでは、現在、世界各地域で進展している主要な地域統合に向けた枠組みを、（1）東南アジア、（2）南アジア、（3）東アジア、（4）アジア太平洋、（5）中東、（6）ユーラシア、（7）欧州、（8）アフリカ、（9）南アメリカ、という9地域に分けて、それらの歴史的経緯と経過、現状と課題、今後の展望を分析し、日本の果たすべき役割と対応策を検討していく。こうした各地域統合の状況と展望を踏まえたうえで、日本はアジアの地域統合の将来についてどのように関わっていくのか、そして、地域主義と多国間主義はどのような形で進んでいくのかという課題について、日本がとるべき方向性と具体的な処方箋を明らかにする。地域統合を巡る外交のプロセスはダイナミックかつ錯綜としている。複眼的思考も求められる。本プロジェクトではこの分野で日本を代表する研究者の参加を得て、これらの課題に答えを提示していくことを目的としている。

## 【研究プロジェクトメンバー】

### 主査

渡邊頼純（慶應義塾大学総合政策学部教授）

### 委員

清水一史（九州大学経済学研究院教授）

石川幸一（亜細亜大学アジア研究所教授）

寺田貴（同志社大学法学部教授）

田中浩一郎（日本エネルギー経済研究所理事）

廣瀬陽子（慶應義塾大学総合政策学部准教授）

片岡貞治（早稲田大学国際学術院教授）

松井謙一郎（国際通貨研究所上席研究員）

### 研究員

浅利秀樹（日本国際問題研究所副所長兼主任研究員）

畑佐伸英（日本国際問題研究所研究員）